

第1章 生涯学習分野

分野別目標 1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> よくできている コンテンツの数はほぼ十分 充実している 評価する 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 内容も大変充実 個別の活動はしっかりとなされている 公益財団法人文京アカデミーが着実に計画を推進していることを評価したい。 託児システムなど、対応がなされており評価 	<ul style="list-style-type: none"> いきいきアカデミア講座は面白い取組み。 大学による講座や事業を含め、多くの学習や資格の取得ができる機会があり、よい 保育室や手話、インターネットによる配信など、配慮もされていることもよい 図書館を利用するにあたって、司書などの職員の対応も親切かついいいで、多くの本を借りたり読みたくなったりする気持ちにさせる雰囲気がある。配架や飾りなどにも工夫がなされている。 これから学習したい区民の方々への、学習機会の入門情報の提供と講座へのお誘いも推進策も考慮が必要 事業内容、開催日時から、高齢者や子供の参加が多いのではないだろうか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①講座の内容でも中間層、若者層を惹きつけてほしい。職場で使える実践的なもの、例えば基礎ワードやエクセル以上の、あるいは若者にアピールしそうなスイーツコラボ企画等の講座、携帯アプリ講座等。資格取得支援により重点投資をしてはどうか。 ②魚のおろし方教室のような体験型の講座へのニーズが高まっているので、一層の充実を。 ③eラーニング講座の提供内容を拡大 ④テーマによっては、区外に呼びかけて受講者を集め、文京区を知ってもらう機会としてもよいのではないか。 ⑤託児システムは、生活協同組合等が行っている子育て支援事業などと連携して効果的かつ効果的な事業推進を望みます。 ⑥区民のだれもが主体的に参加・活動の意欲をもっているとは限らない。主体的に参加・活動の意欲を持たない人たちを取り込む対策も必要なのではないのか。 ⑦講座の内容に応じてターゲット層を決め、その層がより参加し易くしてはどうか。 ⑧大学や企業との協同を進め、大学や企業の施設や人員を活用した連携セミナーのような取組みの一層の展開が望まれる。 ⑨サポーター制度を設け、SNS活用、プログラマーとの連携など、口コミの発信を行ってはどうか。

分野別目標 2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <p>目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> HP、広報紙、ケーブルテレビ等様々な手段で情報を発信しており、HPを閲覧、チャンネルをケーブルテレビに、広報誌を手にとれば実にたくさんの情報が発信されている ポスター等も目にする機会も多く、掲載場所も工夫されており、とてもよい。 学びを通して教養を高めたいと思っている区民が、興味や関心に応じて、区報や講座案内、ホームページ、区の施設にある掲示板などによる情報を基にして、気軽に取り組むことができる環境にあるのはよいと思う。申し込みにおいても、ホームページを活用する事ができ、便利であることから、さまざまなことに活用できるよう一層充実させるとよいと思う。 情報提供の媒体は、現状の「区報・スクエアー・ホームページ・パンフレット」で十分である。 HPの活用が少ない 学習拠点インフラ整備としては、図書館施設の充実が最も望まれると思う。 現況の体制では情報提供が「発信」に偏っているように感じる。 区報、(財)文京アカデミーの機関誌など印刷媒体はおおむねしっかりやっていると思う。 (財)文京アカデミーのウェブサイトもよくつくってある。ただし文京区役所からアカデミーのウェブサイトへのリンクがわかりにくい。モバイル端末などデジタル・メディアへの対応にもっと力を入れていく必要がある。できれば印刷媒体と統合的にパブリッシュするしくみをつくっていくとよい。 	<ol style="list-style-type: none"> ①個人的には「文の京」としては、もっと大規模な図書館が複数あって良いと思う。中期的にフラッグシップ的な大規模図書館整備への集中投資は考えられないか？ ②従来の媒体に加え、ソーシャルメディアを活用した情報提供を検討してはどうか。 ③区民が悩む学習相談に個人ごとに対応する体制(月2～3回)の窓口相談体制が必要か。(現在は一日体験フェア年2回開催時で対応) ④幅広い年代層を対象としたメディアのあり方を考えた場合、インターネット主体の現状を踏まえつつ「ラジオ」という媒体はどうだろうか。たとえばコミュニティFM局によるきめ細かな地域情報発信などが効果的と考える。また、災害時の連絡伝達にかなり有効と思われます。 ⑤HPだとヒット数、アクセス数で期間ごとに検討していると思いますが、掲載後の効果分析が必要だと思います。また、民間紙、局との連携など、能動的な広報があるとよい。 ⑥パソコンを使わない、区報を読まない、人付き合いが少ないなど、積極的に情報集めをしない人たちも多いと思うので、人を介した呼びかけなどできっかけづくりをしづらいのではないか。

分野別目標 3 区民・団体の主体的な活動の支援

No.	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働協治という基本構想の方向性からも、大変積極的な良い取り組みと思う。 ・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 ・おおむねよくやられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区民の主体的な活動を推進するため、生涯学習司や地域文化インタープリター、さらには、文京アカデミアサポーター等、人材養成に注力していることは評価できる。 ・「主体的な活動」にリンクする部分が少ない ・ここまで主体的な取り組みとなると、一定人数以上には参加の裾野が広がらない気がする。 ・細かいことだが(4)人材活用の推進にある「大学の人材の審議会での活用」という物言いには注意をしていただきたい。大学人が地域貢献をすることは一般的に望ましいが、必ずしも審議会に名を連ねる必要はなく、是々非々で対応すべきニュートラル・コーナーにいる。どんな審議会にでも顔を出すということがよいわけではなく、役所の便利屋であってもいけない。誤解を生まない文言に修正してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生涯学習活動を支援する人材の「育成講座」の開講は、今後も継続して必要である。 ②区民・団体の主体的な活動の支援において、他の自治体で参考となる取り組みはないか？ ③生涯学習司や地域文化インタープリター、さらには、文京アカデミアサポーター等その活動の場の確保が課題となっているが、活動の機会を行政が用意するのではなく、資格取得者が自ら動いて活動の場を作り出していくという、自立の方向が望ましい。 ④受講後の人材は、組織(団体等)運営に任せる(依頼)ことで良い。なを、事務分担(特に広報)については支援(予算化)分担が必要。 ⑤アカデミアサポーター、生涯学習司の活動の場をもっと広げていただき、気軽に問い合わせができる窓口があるとよいと思います。 ⑥生涯学習司や地域文化インタープリター、文京アカデミアサポーター、青少年リーダーの方々活動できる場を多く設定し、そこで実力を発揮し、活躍されることを期待したい。 ⑦現有図書館の開館日を拡大・時間の延長を実施が実現しているが、利用員数他満足アンケート等で再評価が必要である(要求ニーズの真意)。 ⑧活動団体・区民の活動事例を定期広報媒体でPR紹介が必要。

第2章 スポーツ

分野別目標 1 スポーツのきっかけづくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】 ・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 【否定的評価】 ・H22年度の事業内容と変わらない</p>	<p>・野球・サッカー・武道の中心という土地柄を有効に活用して、今後の国民体育大会やオリンピック等に積極的に関与する方向性に期待します。 ・文京区には、様々なスポーツ施設があり、年間70万人を超える大勢の区民が利用しており、評価できる。 ・スポーツをやってみたいと思っている区民が、区報やインターネット、掲示板などによる情報を基にして、場所や時間帯など各自の都合に応じて取り組めるようになっているのでよい。 ・スポーツ体験教室では、初心者や小中学生、親子を対象としており、将来、スポーツを続けようとする動機づくりにつながるようになると思う。 ・スポーツ推進委員・スポーツリーダーの組織体制が整備されて今後の活躍に期待します。 ・地域・町内会等学区に密着した活動の推進(開催日・内容)と広報(PR)の頻度を高めてほしい(区掲示板など)</p>	<p>①新しいスポーツ基本計画における取り組むべき施策(今後5年間に取り組むべき施策) 1.学校と地域における子どものスポーツ機会の推進 2.若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等のライフステージに応じたスポーツ活動の推進 3.住民が主体的に参画する地域スポーツ環境の整備 4.国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備 5.オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進 6.ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上 7.スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進 ②競技によっては強豪実業団チームなどに依頼してスポーツ教室などを開いてはどうか。(例)全国規模の大会など参加時、試合終了後、同じ競技場内で卓球教室を開く等。 ③健康づくりの観点に立ったスポーツ振興を前面に出すことも必要。(例)区の健康診断結果をもとに、病氣予防の観点から、軽い運動やスポーツへつなげるなどの取組み。 ④スポーツ交流ひろば通信等、スポーツに関する情報がより気軽に入手できる方法、すなわち印刷媒体以外のデジタル・メディアの活用を今後、積極的にしていく必要がある。 ⑤民間施設と連携し、民間施設がもつネットワークを活用した、きっかけづくりの拡大ができるとうい。 ⑥スポーツ活動を「とくに必要とは思わない」と答えた人(主に高齢者)に対し、訪問機会のあるボランティアなどが日常生活の張りあい、仲間づくりなど、健康面だけではなく精神面でアドバイスして参加を促すような連携体制は採れないか。</p>

分野別目標 2 スポーツを楽しむ環境づくり

No.	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】 ・既存インフラを活用しつつ、バランスの良い施策がなされていると思う。 ・ハード面については、進んでいる ・「スポーツ交流ひろば」など年間3万人を超える区民が利用しており、評価できる。</p>	<p>・「見るスポーツ」と「やるスポーツ」がバランスよく融合できるよう今後の事業展開に期待します。 ・旧第五中学校の体育館や小石川運動場の改修工事が完了し、きれいで使いやすく、気持ちよくスポーツが楽しめるようになった。 ・「スポーツ交流ひろば」は、無料で気楽に施設を利用して、スポーツに取り組めて楽しむことができ、しかも、仲間づくりや交流を図ることができることから、今後も充実させられるとうい。 ・小中学生が運動をする機会が設定されていてよいと思う。中学生は運動部活動に入学することで運動する機会が得られるが、小学生にはそのような機会がないので、子どもひろばはよい。中学生にとっては、部活動としての種目が少ないスキーや水泳をする機会があるので、よい。 ・各種目の区民大会の実施は、地域スポーツクラブの活性化の機会になっている。 ・優れたアスリートが当区から輩出される環境も整備されたい。</p>	<p>①ヨガ、エアロビクス、水泳などは、そこに行けばいつでも楽しめるというゆるさが必要ではないか。 ②スポーツが苦手な人や高齢者を引き出し、日ごろから運動に親しむ市民層を広げていくことが重要。 ③区民が健康の管理(体力づくり等)楽しむ仲間作りが重要 ④スポーツを楽しむきっかけ作り(スポーツの交流ひろば含む)のPRを高頻度で行い、拡大を図って欲しい。 ⑤国体の積極的なPR(例えば区のHPのトップページ、大量のポスター掲示)を行ってはどうか。 ⑥スポーツジムなどの民間の施設を有効に活用することを検討してはどうか。(例)経営者と共同して、平日に料金を抑えて、地元の高齢者や主婦の利用を促進するなどの取組みはできないか。 ⑦スポーツ交流ひろば等、利用可能な既存の施設を増やし、団体や子供対象以外にも、中間層個人でも参加できる多様なプログラムをもっと展開してほしい。 ⑧区内にある小中学校の体育館での「スポーツ交流ひろば」以外の夜間の使用については、各学校が管理しており、区民が公平に使用できるようなシステムを作る必要があると思う。 ⑨区として東京ドーム、講道館という著名な施設とタイアップした大会・イベントなどを行ってはどうか。</p>

分野別目標 3 スポーツ観戦の魅力向上

No.	意見・要望	提案・課題等
【肯定的評価】 ・これまでも実績がある	<ul style="list-style-type: none"> ・五輪招致・オリンピックムーブメント、プロスポーツとの更なる連携を期待します。 ・子供向け以外にも、中間層でも参加できるプログラムの開拓(週末、夜間観戦等)も引き続き行ってほしい。 ・最高レベルのスポーツ選手の試合や練習などを直に見学できる取組みを一層増やしてほしい。 ・スポーツを実践している中学生にとっては、意欲や技能を高めるのによい機会であると考え。青少年の健全育成の面からの連携を図りながら広められるとよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①東京ドームシティに隣接するHUBの様なスポーツ(観戦)パーの誘致をしてはどうか(資金支援など)。 ②東京都のオリンピック誘致を積極的に支援してはどうか。 ③区内に著名なスポーツ団体や施設があるのだから、それらをもっとアピールするとともに、区民ならではの特典があるといい。 ④数多くの大学がある意味から文京区を大学駅伝の迂回コースにすることを考えたらどうか。

分野別目標 4 スポーツ指導者の育成

評価	意見・要望	提案・課題等
【否定的評価】 現状維持という印象	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく、スポーツ推進委員・スポーツリーダーの組織体制が整備されての推進、今後の活躍に期待します。 ・スポーツ文化の基礎作りは重要なものなので、今後も継続して推進をお願いしたい。 ・ファミリースポーツデーには多くの区民が参加し、事業として盛況である。そこでスポーツ指導者の活用は、区民との交流を図る機会としてよいと思う。 ・体育指導委員、スポーツリーダーの存在を初めて知りました。 ・スポーツ指導者の技術の向上は重要であると考え。初心者に対する基礎・基本を指導する場面や上級者に対する最新の技術を指導する場面など、スポーツを実践している区民のニーズは多様で、奥が深いのが現状である。そこで、研修会の回数を増やしたり講師の人選を慎重にしたりして充実させる必要がある。若い指導者の開拓も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①区内各大学のスポーツ教育関係の学部・学科、サークルと連携して有意義なことが出来ないか？ ②健康づくりのためのスポーツや高齢者にふさわしい運動を促進するという観点から、専門のスポーツ指導者の育成やスポーツ関連施設への配置が必要ではないか。 ③ターゲットを決めた具体的な育成事業などの検討が望まれます。 ④活動の場をもっと広げていただき、初心者でも気軽に問い合わせができる窓口があるとよいと思います。

第3章 文化・芸術

分野別目標 1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者を有効利用し、多くの機会を提供していると思います。 内容的にも十分 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 個別のおおむねしっかり、よくやられていると思う。充実した内容である。 文化芸術に接する多様な機会が設けられており、非常に充実していると思う。 現行の区民の活動成果発表の場の提供が行われていることを評価したい。 バラエティに富んだ様々な事業が実施されており、大変充実している。クオリティも高い。歴史や文化を感じ取れる事業が多く、評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> イベント情報などの情報発信もきちんとされていると思います。 文化芸術はナマの現物を見ることこそ肝要。そういう意味で現物に触れる機会を多く設けるという方向性は正しい。 子育て中の主婦、定年退職したシニア世代などは、町内会や老人会など地域のサークルに参加するのをためらう人が多いのではないかと。そういう人たちを取り込むために、たとえば「第九を歌おう」のような区を挙げてのイベントを開催できたらいいと思う。 「文の京 文化発信プロジェクト」は、タイムリーなテーマで内容もよく、近隣の博物館で講演の内容を、見学を通して体験することができ、大変よいと思う。事業の中には、参加を希望する応募者が多数の場合には抽選となり、希望に添えない人が出てしまうのは残念である。 	<ul style="list-style-type: none"> ①行政が中心となった文化形成事業ももちろん重要であるが、コンベンなどの方法で開花しつつある才能に支援する方法も考えられる。また一定の地域を「特区」として重点的に盛上げることも大切ではないか。(例えば「三百人劇場」をキーワードに文化復興させる街づくりなど) ②中間層でも参加できるような日時、プログラムがもっと充実するとよいと思います。 ③「高尚文化・芸術」だけではなく、より日常生活に根付いた文化・芸術領域にも拡がることよい。 ④コンピュータ・システムについては、個別の組織に閉じたシステムづくりをするのではなく、ウェブサイトに連動させて可逆性、発展性があるものにしていく必要がある。区役所や(財)文京アカデミーのウェブサイトとしっかり連動させていくことが課題として残る。 ⑤既に東京には文化芸術関連のイベントが集中していることから、例えば、障害者を対象にした催しや、子育て中の母親を対象にした託児付きのイベントなどを重点的に実施し、区独自の取り組みの効果を上げていくことが望まれる。

分野別目標 2 文化・芸術活動を豊かにするための情報提供・相談体制の整備・充実

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロモーション活動が見られません 	<ul style="list-style-type: none"> 文京ではならではネットワークづくりは大変評価できます。 バラエティに富んだ様々な事業の紹介が多岐にわたって紹介されており、情報量は十分である。 区報やミュージズネット、ホームページ、掲示などにより情報を提供し、区民の興味や関心に応じて、参加できるような環境ができていてよいと思う。多くのさまざまな区民に知らせるためには、より一層の工夫が必要であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①趣味の手芸、絵画、書道、コーラスなど楽しむことから始め、自信がついてきたら発表の場がほしくなり、プロのアーティストの公演・活動に触れたいという道筋づくりに沿った取り組みがあるとよいのではないか。 ②若い世代への情報提供を考える際、波及効果のあるフェイスブックなどのソーシャルメディアの活用は、欠かせないのではないか。 ③区内の文化・芸術に優れた人材の登録(DB)の整備が必要。 ④媒体には様々な情報が満載であり、よりターゲット別に整理されていると読みやすいのではないか。広報はHPや機関誌でもされているものの、ターゲット別アプローチがあると、より分かりやすいと思われる。

分野別目標 3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり

No.	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 森鷗外については、十分に行われています。 文化芸術は現物に触れる以前に、その背景など学習していれば、より、現物の良さが分かると思います。 現在推進中の資料等デジタル化の公開に期待。 森鷗外記念館の開館により、貴重な鷗外にかかわる資料が保存・展示されることになってよかったと思う。 森鷗外関連が突出しているが、今後はそれに限らず、文化・芸術全般にわたってバランスよく活動をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ①区内の文化・芸術に優れた人材との連携を図る体制・体系を整備する。人材のパンフレットなどを作成しても面白いかもしれません。 ②アカデミアサポーター、生涯学習司、インタープリターの活動の場をもっと広げていただき、気軽に問い合わせができる窓口があるとよいと思います。 ③様々な事業が年中を通して実施されているので、横浜のjazzfestivalなど、ある一定期間を「文京区芸術week」とくくり、集中的に実施し、インパクトをはかるなど。 ④森鷗外以外の人物(文京区出身の偉人)はいないのでしょうか？ ⑤鷗外の研究者や専門家と連携し、内容を深めるとともに、来館者に内容を伝えていく知識を備えた人材、いわゆるガイドの育成も重要であると考えます。また、これをきっかけに、鷗外以外の文化や歴史にまつわる人々の資料などの発掘や開拓につなげられるとよいと思う。 ⑥文化芸術を楽しむ区民を増やすには、子供への取り組みが効果的。既に多く取り組まれていると思うが、効果を検証し、幼児や小・中学生を対象とした取り組みの充実が望まれる。 ⑦「歴史」という言葉があるように歴史ブームでもあり、そういう人たちは自分の知識を披歴したいはず。ガイドの説明を聞くといった受け身のプログラムだけでなく、発表する場を設けると参加する意欲を高めるとともに、自分もガイドをめざそうと思うのではないか。

第4章 観光

分野別目標 1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文京区内の観光スポットを点でPRするのではなく、線をつなげて、回遊性を重視した観光ルートを作って普及させることが大切。その点で、区の取組みは評価できる。 ・資源の活用と創出は、各事業において一定の取組みや試みがなされている ・目標、基本的な方向性に沿った取組みが進められている。 ・歴史的・文化的な資源を数多く有する観光コースや人材育成が数多く行われており、評価できる。 <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状維持という印象 	<p>意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、事業企画してあるものもあるので、その事業に期待します。 ・4つの施策を進めていく方向性は正しいと思う。 ・観光振興に取り組む際、観光客の財布をいかにして開かせるかは重要なポイント。経済的なメリットがあって初めて地域が潤い、継続的な観光客誘致が可能になる。食べる、買う、体験するに関するブランド力を高めることは、良い取組みである。現在すすめている「食」について、成果が得られれば、様々な機会をとらえて、そのPR・売込みに注力していただきたい。 ・土産物開発には資源の発掘・活用・創出の効果が期待できるので、よりいっそうこの取組みを展開していくことが望まれる。 ・既に「文の京ミュージアムネットワーク」で検討されているかと思うが、博物館や美術館など他施設の年間スケジュールと連動した取組みなど、ネットワークの活用が期待される。 ・独自の観光事業は既に多くあることから、他の連携事業（東洋大学国際観光学科との連携のような）など、既存の組織と連携し、観光と一緒に盛り上げていく工夫が引き続き必要だと思われる。 	<p>提案・課題等</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「文人銘菓」のみならず、当項目はブランド構築で、ブランド戦略には広告宣伝が欠かせない。例えば、「文人銘菓」については日経新聞の地域面で拝見したが、より徹底した情報発信が必要だと思う。 ②CS放送の時代劇専門チャンネルで「鬼平の街歩き」の様なツアー募集をしているのを見たことがある。江戸時代、明治時代、文学など特定の嗜好をもつ方が興味を持ちそうな媒体とのタイアップは考えられないか？ ③観光を学ぶ学生にまちあるきをもらい、その中で見つけた面白いもの、不思議なもの、もっと知りたいものを写真とともにメモしてもらい、それを地域をよく知る人たちが解説するというやり取りを通じて、外部の目線と地元の見聞のズレなどが明確になる。 ④ガイド8名育成とあるが、具体的にどの様に育成しているのか？ ⑤巣鴨の地藏通り商店街になぜあれほど高齢者が集まるのか。歴史的なエリアの街歩き、にぎわいのある商店街など、いつ行っても人が集まり気軽に楽しめるスポットの発掘・創出に、地元の事業者などを巻き込んで区を挙げて取り組んだらいいと思う。 ⑥有名な観光スポットを結ぶだけでなく、新たな発見や、体験型の観光スポットを盛り込むなどの工夫が不可欠。さらに観光資源が豊富な近隣区との連携も欠かせない。近隣区に跨った観光ルートの創設など、連携の一層の促進が望まれる。 ⑦森鷗外著作の「青年」に登場する小泉純一が、鷗外が作ったとされる東京の地域地図をたよりに歩いたとされる経路をたどって文京区内を紹介することで、新たな観光コースや観光地の発掘ができるとういと思う。 ⑧資源の発掘については現時点では十分とは言えないのではないか。他の地域に比べて豊富な資源を有するために、その活用だけでも十分であるという考え方もできるが、特に「まちあるき」という視点に立った時には少なくともその再整理は必要である。季節や時間帯、目的に応じた資源の発掘と整理には計画的に取り組むべきである。

分野別目標 2 まちあるきや交流のための環境づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内標識の検討会を開催しているのでそれに期待します。 ・よくやれていると思う。 	<p>意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内標識の整備は整っている。今後は保守・整備で継続対応を評価する。 ・目的地近くには、わかりやすい案内があり、京都のように、遺跡近くに行くと、遺跡情報が携帯端末などでもとれると便利だが、他県からは年配の来訪者が多いことから、需要が少ないかもかもしれない。 ・案内標識は、将来の交流のための環境づくりに不可欠であり、ガイドマップ、リーフレット、ウェブサイトなどの表記との一貫性などを点検しながらより充実させていくべきである。その検討が行われていることは評価できる。 ・エリア内での各種イベントは、地域住民同士の交流はもちろんのこと、住民と訪問者、訪問者同士の交流を促進するきっかけとなる。イベントを実施したり、助成したりする事業は必要である、今後も継続して展開されることが望まれる。 	<p>提案・課題等</p> <ol style="list-style-type: none"> ①イベントは、祭りでしょうか？他のイベントはないのでしょうか？ ②区内の名所・歴史を探訪しながら、同好の士との出会いや交流を通して健康面のアピールができるというのではないかと。それには単なる街歩きから健脚者向けに初級～上級までのコース設定や、同行するガイドの育成も必要だと思う。 ③祭りなど、運営に興味をもっている学生がいれば、ボランティアで運営に参画してもらおうなどの人的支援をしてはどうか。 ④区のコミュニティーバス「Bーぐる」は、観光と連動させたPRIに努め、週末や休日には、観光ルートをめぐる臨時バスを走らせるなどの取組みはできないか。また、区内の回遊性を向上させるために、「Bぐる」や「レンタサイクル」の利用があげられているが、さらに、利便性を高めるために、例えば、「Bぐる」の観光用割引チケットや自転車の無料の貸し出しなど、工夫する必要であると思う。また、案内板や順路を示すコース、次の目的地までの距離などを表示するなどして、観光者が迷わないような配慮も必要である。 ⑤東大という国内有数のMICE開催機関をはじめ、区内にはコンベンション施設が多数立地していることから、区が掲げるMICE誘致は重要である。開催に合わせて、外国語版観光リーフレットを配布させてもらうなど、簡単なことから取組み、実績を積み上げてほしい。 ⑥街歩きのポイントごとに拠点（立ち寄り所）を設けたらどうか。それは既存の建物を使えばいいし、お年寄りや子育て中のママさんが集え、文化の発表の場（飲食＋販売＋ライブハウス）となるような複合的なもので、地域のセンター的意味合いを持たせる。 ⑦体験型の観光コースがあると、中間層でも参加しやすいのではないかと。文京区には、老舗の店が多くあるので、そこでの体験学習等。ちなみに、京都では数珠作成コースが、中学生の郊外実習のクラスに組み込まれている。学校の郊外実習とのコラボなどあるとういのではないかと。 ⑧イベントは開催したあとの反省、課題の整理などがおろそかになりがちのため、必ずそうした機会をもつことを徹底すべきである。

分野別目標 3 観光まちづくりのための情報発信

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他分野に比べ、進んでいる ・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区のツイッターと連動させたイベント情報の発信は良い取組みだと思う。その効果を検証し、ソーシャルメディアの一層の活用を進めてもらいたい。 ・インターネット等を活用し、新しい情報発信がなされているので、大変よいと思う。また、メディアによる区のPRも実現に向けて推進されていることがよく分かる。 ・観光案内所やリーフレット、ウェブサイトなど、必須の項目については引き続き充実への取り組みが期待される。 	<ol style="list-style-type: none"> ①観光インフォメーションがシビックセンター1階にあることの周知はどの様にされているのか？ ②区HPにリンクした”区内観光案内HP”を設ける。 ③コミュニティFMによるきめ細かい情報発信が必要。 ④新聞、テレビ等のメディアとの連携が強化されるとよい。 ⑤観光案内所については、人びとが行き交う場所に設置して利便性を高めるべきなので、現状の形態が最良かどうか検討が望まれる。 ⑥リーフレットやウェブサイトについては、一般の訪問者を対象としたものはもちろんのこと、旅行者や学校等の団体の訪問者向けの情報提供という視点に立った情報発信が実現できているかを点検すべきである。 ⑦ウェブサイトの文言がお役所くさく、内容はよいのにもったいない。写真も重要ではないか。もっと魅力的にできるはず。 ⑧区域によっては昔から続く祭りやイベントが下火になったように感じる。区内の季節ごとの「〇〇まつり」をもっと盛り上げ、区外にも発信して人を呼ぶ必要があるのではないかと。

分野別目標 4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成や体制づくりは時間と手間を要する取組みである。23年度実績を見る限りあまり進捗していないように見えるが、効果を見定めながら、一步一步積み上げていってほしい ・既に人材育成が継続して行われており、評価できる。今後とも積極的に実施し、接する機会を作るイベントなどの継続的な開催があるとよい。 ・観光ガイドの育成など人材育成の取り組みがより評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの観光ガイドは、無料で休日にも実施してくれるので、利用価値が高い事業であると思う。より多くの観光客に利用してもらえるように、PRを進めていく必要があると思う。 ・人材育成の裾野を広げ、今後の継続性を担保するためには、観光に関心を持つ住民を増やしていく必要がある。生涯学習のテーマのひとつとして地域の文化や歴史の整理を進め、それを来訪者に披露していくような取組等アカデミー事業との連携を強化することで、他の事業に携わる人びとに観光の重要性への理解を深められ、さまざまな協力を得る体制が可能になる。 ・小学生や中学生を対象に観光教育を展開し、まちの魅力の再発見や見え方の理解を進め、見せ方の工夫について考えるきっかけを作っていくことも重要である。子供の頃から地元に対する愛着をもつことで、一人ひとりがまちのセールスパーソンになることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①CS放送の時代劇専門チャンネルで「鬼平の街歩き」の様なツアー募集をしているのを見たことがある。江戸時代、明治時代、文学など特定の嗜好をもつ方が興味を持ちそうな媒体の活用は考えられないか？ ②ボランティア観光ガイドの育成を継続してほしい ③区外者向けミニ講座付きまつあるきコース向け観光ガイドの育成も図る。 ④街の面白さを多面的に伝えるためフリーハンドの公募提案型ガイドさんなどの制度があったら面白いと思います。「私だったら、ここここを案内して、ランチはここがおすすめ、スイーツはここが美味しい」などガイドさんによるパッケージ型街歩き、そして「センター」に立ち寄り文京区の良さを伝えます。 ⑤体制作りとしては、JR東日本以外にも多くの鉄道会社や旅行会社と連携し、企画を増やしていくるとよいと思う。

第5章 国際交流

分野別目標 1 国際理解を進める機会づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流フェスタ開催の継続を評価します。 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 よくなされていると思う。目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 おおむねよい <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状維持という印象 	<p>意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光との連携に期待。 区民の国際理解を進めるには、地道に外国人と触れ合える機会を数多く設けていくことが最も効果的だと思う。学校行事や大学との連携等を通じて、外国人と触れ合う場の設定を一層進めてもらいたい。 「受け入る側」の区民、「情報発信する」側の区民の対応指針がなされていると思います。 文京区には、92か国7,508人の外国人が登録しており、区民全体の3.8%を占めており、国際理解の促進に係るセミナー等、様々な取り組みがされており、評価できる。 文京区には大学に通う留学生やアジア文化会館等に居住する若者など多くの外国人がいる。国際交流フェスタのように、その人たちと触れ合える機会を多く企画することで、国際理解や国際交流を推進することができると思う。 大学(留学生)の協カイベント開催とPR強化 	<p>提案・課題等</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相互交流イベントをもっと開催すべきだと思う。 ②国際理解から交流、さらには参加へとつながるよう、講座参加者への事後フォロー事業などがあるとよい。 ③在日外国人の大半は、韓国、中国、台湾の人々なので、そのことをしっかり視野に入れた機会づくりがなされる必要がある ④学校教育の中で、総合的な学習の時間を活用し、留学生が先生となって、異文化や芸能などを児童や生徒に直接指導するという機会があるとよいと思う。

分野別目標 2 国際交流を進める機会づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状維持という印象 国際交流フェスタ開催の継続を評価します。 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 よくなされていると思う。 	<p>意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 以前は修学旅行の宿泊旅館や下宿屋さんが多かった地域で、最近はその外国のツーリストの宿泊施設として紹介されていると聞く。ホテルと違った日本式の旅館・下宿屋のよさをアピールして、おもてなしにつなげてほしいと思う。 日本人としての区民とあまり距離を置かない姿勢が重要でありますので、「調和」を意識した地域主体の機会づくりが大切であると感じます。 「国際交流フェスタ」やガイドツアー等の交流事業が継続的に実施されており評価できる。 文京区には大学に通う留学生やアジア文化会館等に居住する若者など多くの外国人がいる。国際交流フェスタのように、その人たちと触れ合える機会を多く企画することで、国際理解や国際交流が推進することができると思う。 英語観光ガイドツアーの実施は継続的に続けて行くべきだ。 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化:継続的に続けることが望ましい。 国際交流フェスタは、あまり例のない興味を惹く大掛かりなイベントである。費用対効果を検証し、内容の充実を図りながら、今後も開催の継続が望まれる。また、公募したボランティアの今後の活用も検討してほしい。 	<p>提案・課題等</p> <ol style="list-style-type: none"> ①外国人が展示・発表する機会(場)を設けたらいいか。 ②相互交流イベントをもっと開催すべきだと思う。 ③今後国際交流に関する活動や情報収集の窓口として必要であるから、国際交流の基地をシビックセンター内に置いてほしい。 ④国際交流をより充実発展させるためにも、国際交流団体を早急に設立されたい。 ⑤養成した英語観光ガイドは、年数回の活動ではもったいない。語学力がしっかりしているのであれば、観光案内だけでなく、国際交流関連のイベント等にも活用するなど、活動の幅を広げてはどうか。 ⑥外国人のニーズ調査を行い、より多様なプログラム、ツアーが実施されるといいのではないか。 ⑦フェスタの知名度を高めるため、親善大使(もしくはキャラ)をたてる等。メディアをひっぱりこる文京区出身の著名人のボランティア活用等。 ⑧英語以外のガイドツアー(中国語、韓国語)があつてよい。 ⑨学校教育の中で、総合的な学習の時間を活用し、留学生が先生となって、異文化や芸能などを児童や生徒に直接指導する機会があるとよい

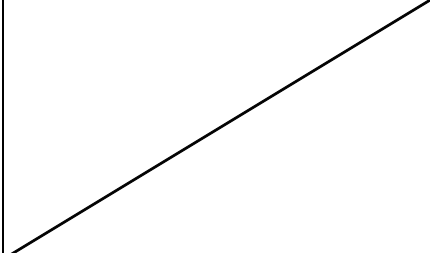
分野別目標 3 外国人が快適に暮らせる環境づくり

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められている。 <p>【否定的評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状では、環境づくりがされている印象を持ちません。 	<p>意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行のイベント(国際交流フェスタ等)の内容充実での対応で良いのでは。 基本はコミュニケーション・言語理解が重要であると思いますので、さまざまな場(前掲の学習、芸術、スポーツ、観光)における国際交流の相乗り、各種サインのユニバーサル化など複合で考えるのが良いでしょう。 今後より活発な活動に期待したい。これこそ、大学との連携が重要になってくるのではないかと。 	<p>提案・課題等</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相互交流イベントをもっと開催すべきだと思う。 ②カイザー・スラウテルン市との交流をより深めるため、民間団体、例えば文京ドイツ協会を立ち上げ、公式な交流と合わせて区民との交流を積極的に推進してほしい。 ③事業例として地域活動センターの活用が挙げられているが、進捗はいかがか。 ④既存の支援団体との連携の可能性の模索等。外国人へのアンケート調査を踏まえた、参加したい内容のプログラムの開発等。 ⑤外国人が快適に暮らせるようにするためには、生活に不自由さを感じさせないことが大事である。そのために、言語にかかわる支援、不安を感じさせない心の支援、買い物したり病院に行ったりするなどの生活の支援などを具体的に進める必要があると思う。

第6章 分野別横断プロジェクト

評価	意見・要望	提案・課題等
<p>【肯定的な評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標、基本的な方向性に沿った取り組みが進められており、生涯学習、文化芸術、観光は複合する面もあることから、横断プロジェクトの促進が期待される。 ・指定管理者が入っている部署は活発 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習とスポーツ、観光と国際交流などの連携によりたくさんアイデアが出てくる印象も持ちました。もしくは、国際交流を基盤として、各事業と連携していくというのも良いかもしれません。 ・アカデミー推進計画にとられない全庁的プロジェクトの必要性を感じました。 ・全体的には良いことをやっていますが、プロモーション不足という印象です。 	<ol style="list-style-type: none"> ①アカデミー推進計画の推進体制は、行政側の役割分担と一般区民が自主運営する主体的役割との基本的考え方を明示(PR)する必要がある。 ②手芸や木工など手作りを楽しむ人にとっては作品発表の場がほしいもの。展示即売という形だけではなく、空き店舗などを利用した区で管理する常設のショップを設ければ、自分の作品が商品になる喜びにつながり、さらにやりがいが出ると思う。 ③文京地域学は、毎年、市民や関係団体を集めて統一テーマを決め、それに基づいて各分野の取組みを考えてはどうか。そうすることによって、横串を通す効果や魅力が増すのではないかと。また、対外的なアピール度も向上するものと思われる。 ④分野ごとに実施する事業は、集中して奥が深い内容について追求することができる利点があるが、ひとつのテーマに向けて、全分野が関連する部門を担当し、広げていくことも区民の豊かな生活への向上につながる大切な視点であるとする。特に、森鷗外記念館の開設を通じて、鷗外と関連がある地区である津和野、ベルリン、小倉、足立などとの連携・交流を図り、また、関連のある作家や歌人などの人物とのかかわりまで広げることで、生涯150周年事業をさらに深めていけるとよいと思う。 ⑤このカテゴリー自体の位置づけがはっきりしない。個別の活動はよいと思うが、バラバラ感が否めない。本来分野は便宜的なもので横断するのが当然なのだから、少し全体のなかでの位置づけを再検討すべきではないか。

その他意見

評価	意見・要望	提案・課題等
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は機会があれば出来る限り幅広く、各事業の現場を一つでも多く見られるように努力したく思っています。 ・今回の会議では配布資料が多く、事前にゆっくり目を通す余裕がありませんでした。次回より資料等が多い場合は、出来る限り事前に送付してもらえればと思います。 ・現在行われている事業について内容・費用(費用対効果)など再度検討し、必要不可欠なものを優先し、順位を付けての事業の推進 	<ol style="list-style-type: none"> ①文京区基本構想実施計画(平成23年度～平成25年度)3年間の事業費のうち平成23年度取組状況報告書による各事業支出の対比 ②現在行われている事業のうち、直ぐには効果が出なくても将来に亘って必要な事業(青少年育成事業など)には明確な目標を立て、それに対しての十分な費用の手当て。 ③各事業のより良い効果を上げるため、今回の委員のみでは補いきれない部分があると思われるので、年度末(適当な時期)に一度、現在実施されている事業全般について、現在の委員とアカデミー推進計画策定協議会で、生涯学習他それぞれの委員会に所属され計画策定に携わった方々にも参加してもらい、それぞれの現場の意見を広く伺う機会を作っては如何でしょうか(アンケートなどにより意見を聴く方法もあるのでとれます。)